

多気町立図書館だより

TEL0598-38-1133 (多気図書館)

TEL0598-49-4500 (勢和図書館)

<https://www.town.takime.jp/library/index.html>



『ピカピカ俳句』
斎藤孝/著
ピカピカ社 (911p)



『日本のたしなみ物 百人一首』
『現代用語の基礎知識』編集部/編
田村孝志/編著 自由国民社 (911p)

春を待ちわびたり、
感動したりする
のは、今の人も
昔の人も変わり
ませんね。

春風や
開志いできて
丘に立つ

高砂康子

高砂の 尾の上の桜
咲きにけり 外山の霞
たたずもあらなむ

推中納言区別
『後拾遺集』所収

多気図書館

3月のカレンダー

: 休館日

日	月	火	水	木	金	土
1 特別開館	2 開館	3 開館	4 →	5	6	7 おはなし会
8	9	10	11	12	13 おはなし おもちゃ	14 おはなし ほけつこ
15	16	17	18	19	20 おはなし おはなし 会	21
22	23	24	25	26	27	28 おはなし ほけつこ
29	30	31 開館日	おはなし会		10:30~	

ブックスタート (のびのび) 3/25(水) 10:00~

~コーナー紹介~

Teens (ティーンズ) コーナー

・幼すぎず、大人すぎないティーンズ向け本を展開中!
ティーンズ向けとは言いますが、いろいろな世代の方に来
してもらえる本がいっぱいです。

本、図書館のプチ知識 (PART2)

Teens とは?

児童と成人の間の年齢層のことです。

(YA ともいいます)

勢和図書館

3月のカレンダー

: 休館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4 おはなし会 (0歳)	5	6	7
8 ぼんこ カフェ	9	10	11	12	13	14 おはなし会
15	16	17	18 おはなし会 (1~3歳)	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28 おはなし会
29	30 開館日	31	おはなし会		10:30~	

~ イベント 紹介 ~

●和のほんとかフェ

と き: 3月8日(日) 13:00~16:00

お抹茶: 服部芳子(いろは亭)さん
コラボ: 飯高工房 草餅部さん いもはるさん
コーヒー: オーロコーヒーさん

●展示「春、春のひかり ひらひら ひなまつり」

と き: 2月28日(土)~3月29日(日)

と ころ: 企画展示室

FB・Insta → 「多気町立勢和図書館」

か「feelwlib」で検索



3月のおすすめ本



『しぶとい十人の本屋』 辻山 良雄 著 朝日出版社 (024.17)

新しい出版業界の中、惜しまれながらも次々と本屋さんが閉店しています。しかしそんな中でも個人で本屋を営んでいる方々が増えているそうです。そんな“独立本屋”の一人、辻山さんが、同じく志高く頑張っている本屋さんたちの元を訪れます。本と人に対する熱い思いが、我々図書館員にも響きます。私たち人にとって本ってなんなのでしょう…。

『こちら、空港医療センター』 シン・ホ Chol: 著 渡辺 麻士: 訳 原書房 (498p)

日本から一番近い海外である、おとなり韓国の仁川国際空港にある医療センターが舞台。空港という場所柄、様々な国籍や背景をもつ患者さんたちのことや、想像以上に幅広い仕事内容の数々がかかれています。空港ならではの出来事がとても興味深い! この医療センターのセンター長を務める、著者の温かい人柄があらわれる1冊となっています。



『ピーマンの男』 浅井裕子: 著 アネモス BOOKS (673.7)



元編集者の素人が、ハン屋に間借りをして語られるがままに八百屋を始めてしまった! その八百屋で出会ったピーマンの男をはじめ、かぼちゃのマダム、ネギ女王様など、お客さんや青果市場の人々などとの約3年半にわたる楽しい交流を描いた八百屋エッセイ。名前も聞いたことがないような、どうやって食べるのかわからないような、レア野菜と果物の解説も付いています。

『おぼろ迷宮』 月村了衛: 著 角川書店 (F913.67)

女子大生の夏芽がある日バイト先の「甘味処 甘吟堂」に行くと、店主と名乗る見知らぬ男に門前払いされてしまう。翌日恐る恐る出勤すると、いつもの店主がいて、夏芽は昨日無断欠勤したことになっていて…!?
夏芽の出会った不可解な出来事の謎に挑むのは、おんぼろアパート「籠荘」でお隣さんの経歴不明の老人、鴨滝。二人は甘味をあげつつ、謎事件を解決していく!!



『ロッコク・キッチン』 川内 有結: 著 一之瀬 ちひろ: 写真 講談社 (369.34)



福島第一原発事故から十数年。避難指示が解除され、町に戻ってくる住人も少なくはない。そんななか福島県の国道6号線(通所ロッコク)を通り、その地に住む人たちの温かな記憶と味をお訪ねする。

あの日から…

『願わくば海の底で』 額賀 清: 著 東京創元社 (F913.64)

美術部に所属する菅原晋也。誰に対しても飄々と振る舞う青年で、美大への進学も決まっていた。しかしあの日…。彼は大切な人たちの前から姿を消した…。見つかっていない。でも年月だけが過ぎていく…。あきらめきれない思いと奥底に届けを出し、自身に納得させる…。

